3. スペースの確保

⚠ 注意

■ 取付け、取外し、配管、配線作業に必要なスペースを確保してください。

■ 保守点検に必要なスペースを確保してください。

4. 配管

⚠ 注意

■ 配管および配管作業中のゴミやバリがバルブ弁座部やOリングシール部を傷つけ、リークを発生させることがあります。バルブ取付け前には必ずゴミやバリを取り除いてください。

■ 配管による引張・圧縮・曲げ等の力がバルブボディに加わらないように配管してください。

■ 真空フランジのシール面に傷などが付かないように取扱いください。AVB※※7、MVB※17、EVBのフランジ面にはシール面の保護用に0.1～0.2mmの段差(凹形状)を設けております。

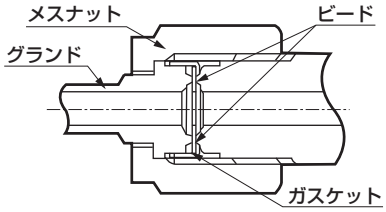
■ 排気による流れにより耐久性が低下する場合がありますので、真空ポンプ接続ポート限定機種を除いてベローズ側を排気側として使用していただくことを推奨いたします。
また、使用条件により耐久性が異なりますので、充分な確認をお願いいたします。

■ 配管作業終了後は必ずリーク検査を実施し、リークのないことをご確認ください。

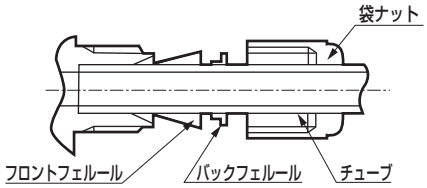
■ 継手の締め付けは、シール部にゴミ、傷、バリなどがないことをご確認の上、下記要領に従って行ってください。

①継手締め付け方法

● JXR継手(ガスケット材質がニッケル・SUS316の場合)ガスケットがビード面に当たるまでナットを指で締め付けられるだけ締め込み、その状態より工具を用いて更に1/8回転締め付けます。(その他材質の場合は、ご相談ください)



● 二重くい込み継手
フロントフェルール、バックフェルール、ナットが正常に取付けられていることをご確認の上で、チューブを本体の奥に当たるまで差し込み、ナットを指で締め付けられるだけ締め込み、その後その状態より工具で1¼回転締めれば完了です。



②継手締め付け完了後は、必ずリーク検査を実施し、リークのないことをご確認ください。

5. 電磁弁について

⚠ 注意

■ 電磁弁のコイル部の通電時高温注意(一部機種)

●電磁弁(HVB/HVL)のコイル部は電気を通電すると発熱します。特にその中でもH種仕様のコイルの機種(HVBの一部機種)については通電時に高温となる場合があります。直接触れると火傷をする場合がありますのでご注意ください。

■ 電磁弁の配線時の注意

①配線用電線は、目安として公称断面積0.5mm^{2}以上をご使用ください。また、リード線には無理な力が加わらないようにしてください。
②許容電圧範囲でご使用ください。許容電圧範囲外でのご使用は作動不良やコイル破損の原因となります。
③電気設備保全の為に、制御回路側にはヒューズなどの遮断機をご使用ください。
④接点チャタリングの発生しないスイッチング回路の採用は、電磁弁の耐久性をより長くします。
⑤電気回路系がソレノイドのサージを嫌う場合は、サージアブソーバをソレノイドに並列に入れていただくなどの対策をしてください。

6. エアー配管

⚠ 注意

■ 配管する場合は、取扱説明書を参照して、接続ポートなどを間違えないようにしてください。

● 誤作動の原因になります。

■ 配管接続時のシールテープの巻付け方法は、配管のねじ部分の先端から2山以上内側の位置から時計方向に巻付けます。

● シールテープが配管ねじ部分より先端に出ていますと、ねじ込みによって、シールテープが切断され切れ端となって内部に入りこみ、故障の原因となります。

■ 配管接続時には適正トルクで締付けてください。

● 空気漏れ、ねじ破損防止が目的です。
● ねじ山に傷をつけないように、初めは手で締め込んでから、工具をご使用ください。

[参考値]取扱説明書をご参照ください。

接続ねじ	締付けトルク(N・m)
M5	1～1.5
Rc1/8	3～5
Rc1/4	6～8
Rc3/8	13～15